

1 本市の財政状況

(1) 令和6年度決算の状況

- ▶ 令和6年度普通会計の決算は、市民交流センターの大規模改修、定額減税の実施に伴う調整給付金の給付に加え、人件費や公債費(借金返済)などの義務的経費が増加したため、歳出決算額は過去3番目の規模となった。
- ▶ 実質収支は、4億7千万円余の黒字となったが、一方で、実質収支から、前年度からの繰越金や財政調整基金(市の貯金)の積立・取崩額を除いた、令和6年度の収入と支出のみの収支状況を示す実質単年度収支は、2千万円余の赤字となった。

(2) 今後の見通し

ア 帳入

- ① 中長期的には、人口の減少による市税や国からの地方交付税の減少が見込まれる。
- ② 合併特例債や緊急防災・減災事業債等の地方債(市の借金)の返済金に対して、国が地方交付税として市に財源を講じる割合が高い有利な地方債の活用に期限がある。

イ 帳出

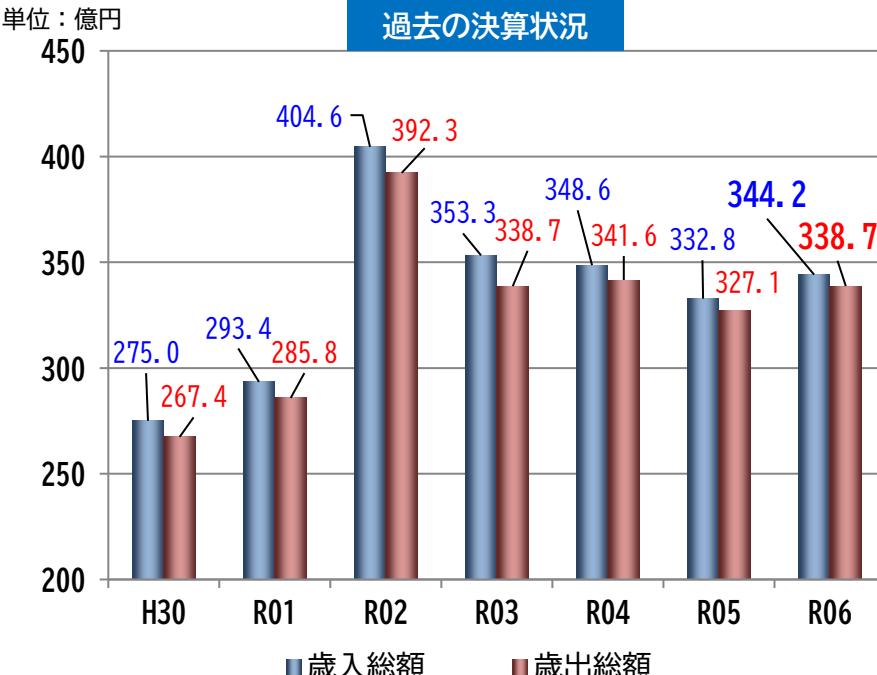
- ① 人件費や扶助費(児童手当や医療費の助成、生活保護費など)を中心に義務的経費が急増
- ② 公共施設の老朽化対策等に伴う普通建設事業費の増加
- ③ 物価・資材価格の高騰や賃上げ等による事業費変動
- ④ 塩尻市文化会館(レザンホール)の大規模改修等の大型ハード事業に伴う公債費(借金返済)の増加

最新の財政推計では

令和8年度以降も厳しい財政状況が見込まれるため、予算編成では収支不足を極力圧縮して、収支の不足を埋めるための市の貯金である「財政調整基金」を一定額確保する必要がある。

また、本市が、今後も健全財政を堅持し、持続可能な行財政運営を行うため、職員一人ひとりが財政状況を認識し、コスト意識を強く持って事業の優先順位を定め、徹底した経費の見直しと歳入の確保を強く進める。

令和6年度決算状況	金額(千円)
歳入総額	34,415,924
歳出総額	33,871,631
歳入歳出差引額	544,293
翌年度に繰り越すべき財源	76,039
実質収支	468,254
実質単年度収支	△20,732



2 予算編成の基本的な考え方



大変厳しい財政見通しではあるが、令和8年度は、しおじり未来投資戦略(第六次塩尻市総合計画)第1期中期戦略の最終年に当たることから、総合計画に掲げる目指す都市像の実現に向けて、「チャレンジ」と「アクション」を継続し、中期戦略の着実な推進と財政健全化との両立が適切に図られるよう、次に掲げる基本的事項を柱として予算編成を行う。

(1) 「第六次塩尻市総合計画に基づく施策」・「市長マニフェスト」の推進

「第六次塩尻市総合計画」第1期中期戦略の最終年に当たり、中期戦略の特徴に位置付けた「重点投資」「ブランド戦略」の取り組みへの資源配分に十分配慮する。

また、『市長マニフェスト』の具現化に向けて着実な施策展開を推進する。

(2) 「行財政改革アクションプラン」の推進

「行財政改革アクションプラン」(令和7年度～11年度)に掲げる、使用料・手数料の見直し、サービス・人員配置の見直し、公共施設とサービスの再検討など、各種取組み事項を十分に留意する。

(3) DX等による行政サービスの改革と生産性向上の推進

- ア 窓口での市民サービスの利便性向上などを目指す「行政DX」と、core塩尻を拠点としたDX推進などを目指す「地域DX」の両軸で、全庁を挙げて積極的にDXを推進する。
- イ 「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、「省エネ」「再生可能エネルギー転換」等に配慮する。

(4) 公共施設の老朽化対策の計画的な推進

ア 令和8年度までに「公共施設整備計画」を策定し、公共施設の再配置(継続・統合・廃止等)を見定めた上で、改修・更新を行う。

イ 令和8年度は、緊急性を要する修繕・改修についてのみ行う。

(5) 物価高騰への対応

- ア 市場価格や国・県等の動向等の情報収集に努め、過不足のない予算を計上する。
- イ 物価・資材価格の高騰や賃上げ等による事業費の変動に対応する。

(6) 財源の確保

- ア 市税、料金等の収入は、課税客体等の的確な捕捉・徴収率の向上に努める。
- イ 物価高騰等による行政コスト上昇への対応と、市民全体の公平性確保の観点から実施する使用料・手数料の見直しの結果を的確に予算に反映する。
- ウ ふるさと寄附やガバメントクラウドファンディング等の制度を積極的に活用し、新規財源の確保に努める。

しおじり未来投資戦略（令和6年度～14年度）

■大切にしていること その1 多様な人との共創 その2 幸福度の高いまち その3 チャレンジとアクション

■目指す都市像 多彩な暮らし、叶えるまち。－田園都市しおじり－